



5万分の1地質図幅の新刊

鶴居地域の地質

釧路(2)第22号

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著者 佐藤博之・佐藤 茂
 発行 工業技術院 地質調査所
 取扱先 地学文献センター (0423) 62-5050

- ・「鶴居」地域は北海道東部にある広大な釧路湿原の北にあって 世界唯一の特別天然記念物丹頂鶴の棲息地である。この地域は昭和の初めまでセッチリと呼ばれ 図幅名も「中雪裡」と最近までされていた。村名と図幅名の「鶴居」はこの丹頂鶴に由来し 鶴と学童達の触れ合いは 絶滅寸前を救ったものと語り伝えられている。
- ・この地域は標高40mから300mにわたる広漠とした原野がつづき 自然のきびしさの中で主に酪農と林業によって産業が支えられている。
- ・地質は東北海道における第四紀層の標式層である釧路層群を主とする。釧路層群は周囲の「大柴毛」・「尾

幌」図幅地域のそれと直接の連続であり 軽石礫の非常に多い礫層である達古武累層と 砂礫層である塘路累層に分けられ 海拔120m以下に分布する。

- ・海拔120m以上にはクチョロ火山灰層が分布し これが釧路層群堆積当時の陸地であつ火山砕屑物が堆積した場所である。達古武累層の軽石礫はクチョロ火山灰層から由来した。

- ・本図幅地域北西にある阿寒火山から由来した火山砕屑物は 地域全体に広く分布する。溶結凝灰岩と軽石流堆積物を主とするが 釧路層群を覆い その後の宮島累層に覆われる。全体として山稜を形成し 火山砕屑流特有の低地を埋めた産状は認められない。狭い尾根にも強く溶結した部分が存在する。上記のことは阿寒火山砕屑物の堆積—阿寒カルデラの形成—が 釧路層群の堆積陸化後 新たな河刻の開始前に行なわれたことを示し少なくともウルム氷期ではない。

- ・最上部には雄阿寒火山から摩周火山に由来する各火山灰層が広く分布し 農業上重要な役割を占めている。上記地質の説明については 観察された地点を明示した上で行なわれている。第四紀層の場合には露頭形状の変化が急速な欠点はあるが この説明方法は現地理解の上で有用である。

地質ニュース	第270号	2月号
	定価 ¥ 380	〒 50
昭和52年2月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	